



くすい箱

発行

桐生厚生総合病院 薬剤部

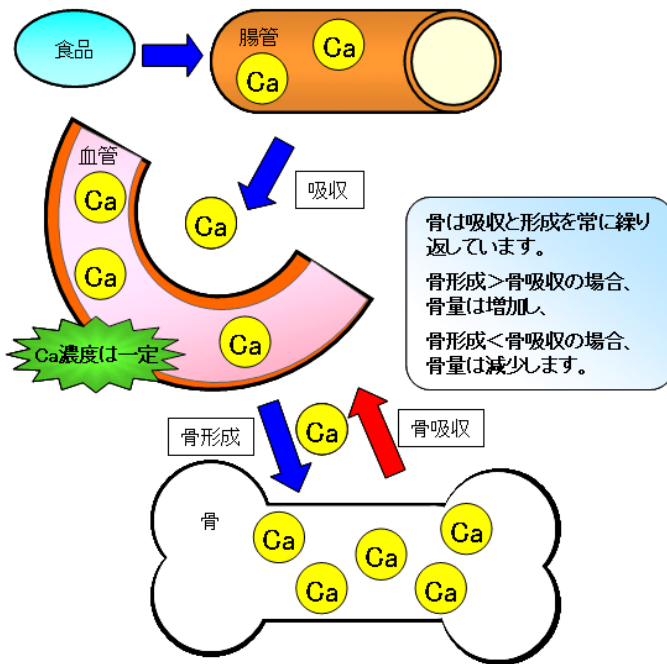
発行責任者 田村 潤一

編集担当者 渡辺 満寿美

矢古宇 由佳

小島 強

第22回目のテーマは“骨粗鬆症とその治療薬”についての紹介です。



骨は日々成分が溶け出す事(骨吸収)と作り出されること(骨形成)がバランスよく行われ、古い骨を壊し新しい骨を作り、一定の量を保っています。



骨粗鬆症とは年齢とともに骨量が減少した状態のことで、骨がもろくなり、骨折しやすくなります。



骨粗鬆症の原因としてはカルシウム摂取不足、骨吸収を抑えるエストロゲンの閉経による減少、老化による腸管からカルシウム吸収低下によるものなどがあげられます。

独立行政法人 国立健康・栄養研究所 HP より引用



続いて当院における骨粗鬆症の内服治療薬について説明します。



ビスフォスフォネート製剤

骨吸収抑制作用により効果を発揮します。当院採用のベネット錠 5 mgは1日1回1錠を起床時に内服し、その後30分は水以外飲んだり食べたりできません。その理由としては食事や水以外の飲み物と混ぜるとお薬の効果が下がるためです。また服用後30分横になってはいけません。食道炎が起きてしまう可能性があるためです。毎日30分起きたままだを繰り返すことが辛いかたのために、決まった曜日に週1回服用すれば良いビスフォスフォネート製剤もあります。当院ではフォサマック錠 35 mgです。

活性型ビタミンD3製剤

ビタミンD3は腸管からのカルシウム吸収を促進する成分です。当院にはワンアルファ錠 0.5 μg とロカルトローカプセル 0.25 μg があります。

SERM 製剤

エストロゲン受容体に作用して骨吸収を抑制する製剤で、適応としては閉経後骨粗鬆症となります。静脈血栓塞栓症の副作用があるため、静脈血栓症の既往のあるかたはもちろん、十分な歩行のできないかたは使用できません。当院ではエビスタ 60 mg錠です。

ビタミンK 製剤

ビタミンKは骨形成を促進し骨吸収を抑制する成分です。当院採用薬はグラケーカプセルです。ビタミンK作用を抑制する抗血液凝固薬であるワーファリンとは一緒に使用できません。

カルシウム製剤

骨の主成分であるカルシウムを補給するための製剤です。ただカルシウム製剤のみでは骨密度の改善はあまり見られず、他の骨粗鬆症治療薬を使用したうえで食事からのカルシウム摂取が不足している患者さんに使用されます。当院ではアスpara CA200 mg錠等です。



以上が骨粗鬆症内服薬です。お薬による骨粗鬆症治療はもちろん重要なことですが、生活習慣を改善することも大事なことです。適度な運動、カルシウム・タンパク質の多い食事の摂取をこころがけ、骨量低下に影響する喫煙・過剰なアルコール摂取を避けるようにしましょう。

生活習慣の改善をしたうえで、必要なお薬を使用することが骨粗鬆症に対して効果的なことです。お薬について気になる点、不安な点があればぜひご相談ください。

次回は、2012年3月発行予定です。